20 歳を迎えて

塩田　茉央

この度、このようにして二十歳を祝う会を迎えることができました。これまで私を支えてくださった皆さまに、心より感謝申し上げます。

私は今回、実行委員を務めさせていただきました。その中で、小学 4 年生のときに担任の先生とクラスのみんなで行った「1/2 成人式」のことを思い出しました。その際に、自分自身に宛てた手紙を書きました。その手紙はこれまで何度も読んでみたい気持ちになったことがありましたが、「二十歳を祝う会の日に読もう」と心に決め、大切に保管してあります。当時、私は二十歳を祝う会にずっと憧れを抱いていました。2 月の広報たまかわでは、「今年はこの先輩たちが成人式なんだ」と感じていたのを思い出します。その頃の私は、二十歳を祝う会はまだまだ先のことのように思っていました。しかし、年を重ねるごとに「もうすぐ自分たちの番だ」と期待が膨らむ一方で、時間の流れの早さに驚きと焦りを感じていました。

現在、私は看護学生として学んでいます。幼少期から看護師になることを夢見ていたので、入学当初は「ついに看護師への道を踏み出した」という期待と、「３年間の学生生活を本当に乗り越えられるのか」という不安が入り混じった気持ちでいっぱいでした。看護学生としての生活は、課題やテスト、実習に追われる日々です。辛いと感じることも多くありますが、その分やりがいを感じる瞬間も少なくありません。特に実習では、患者さんと接していく中で、患者さんの回復する姿を間近で見たり、私が行ったケアで患者さんが喜び、笑顔になり、「ありがとう」と言葉をいただける瞬間に、大きなやりがいを感じます。また、本来は私が患者さんに力を与えるべき存在であるにもかかわらず、逆に患者さんから元気をもらうことも多々あります。こうした経験を通して、患者さんの気持ちに寄り添った対応ができる看護師を目指していきたいと強く思っています。

これからも辛いことや大変なことがあるかもしれませんが、人生で起きるすべての出来事に意味があると思えるような人生を歩めるよう、成長し続けたいと思います。